

- 1 報告地区 : 石狩地区  
2 事例報告学校名 : 北広島市立大曲小学校  
3 報告者 : 校長 村山 浩  
4 キーワード : 学力向上に対する取組

## I はじめに

平成 24 年より北海道教育委員会から学校力向上に関する総合実践事業の指定を受け、「学校経営マネジメント」「教育課程・学習指導」「人材育成」「地域・家庭との連携」の 4 領域について、包括的な学校改善に取り組んでいる。学校課題は、基礎学力保障であり、学年毎に基礎学力の保障の一覧を作成し、課題の解決に向けた具体的方策を立て、取り組んできている。

## II 実践の概要

全ての子どもたちに基礎学力を保障するためには、学ぶ姿勢と意欲、学習習慣、更には、学習の定着状況を把握し、一人一人に応じた学習指導が必要である。そのため、学習環境の整備と学習規律の徹底、学習意欲を高める検定制度の実施、全校で統一した授業スタイルの確立、家庭学習の習慣付け、補充学習の実施に取り組んだ。学習環境や学習規律は全校で統一し、定期的に実態把握を行った。授業スタイルは学習過程を 4 つのユニット (A、B、C、D) に分け、とくに習熟 (D) の時間の充実を図った。学習の定着状況については、単元テストの結果から定着が不十分な子どもについて、朝学習や給食の配膳時間などを使った個別指導を行った。結果、各学年の学力テストの結果において向上が見られてきた。

## III 実践の内容

### 1 学習環境の整備

学習に向かう姿勢づくりのため、玄関の靴箱、ランドセルの収納、衣服の掛け方をそろえている。学校全体で統一した学習環境が、学級経営に指導の違いを生じさせない。教室環境も、前面の掲示をシンプルにし、掲示物も統一してある。

学習する際の学びの約束は、6 項目設定している。学期毎に 2 回程度、子どもたち自身に自己評価させ、その結果を花丸を付けることで視覚化し、動機付けを行っている。



靴箱は、踵を縁にそろえて



ランドセルは、肩紐を内側へ



ハンガーは、斜めに重ねて

### 学びの約束

- ① 学習はじめ ものの準備 挨拶 しっかりと
- ② 机とロッカー いつもそろえて
- ③ 学習は チャイムが鳴ったら スイッチオン
- ④ 呼ばれたら 「はいっ!」と 必ず すぐ返事
- ⑤ お話は 「です」「ます」上手に使いましょう
- ⑥ 腰を立てれば 声も通るし 書く字もきれい



教室前面は全校で統一

机上の教科書やノートの位置、鉛筆や消しゴム、定規についても統一し、廊下にコーナーを作り見本を掲示している。ノート指導についても統一され、定期的に良く整理されたノートをお手本として掲示している。

## 2 意欲付けの検定制度

検定は、意欲付けのため、漢字の読み、書きと計算については「ぜったい検定」として全員が取り組むこととし、他に意欲がある児童は、やりたい検定として、都道府県名や地図記号などに取り組んでいる。漢字の読み検定は、当該学年で覚える漢字の読みのみを6月までに読めるようにしておく。子どもたちは、休み時間などに職員室に来て、新出漢字が入った文章を読み、正しく読めたら合格の判定をもらう。

## 3 学習過程の統一

ユニット授業は、学習過程をABCDの4つのユニットに分けて行うもので、それぞれ頭づくり、課題把握、解決努力、定着・発展である。この過程を意識して取り組むことで、子どもたちは見通しをもちやすくなり、また、主体的に学ぶ姿勢づくりができる。特に、ユニットDを重視し、教師が習熟の状況を把握しながら全員が分かる・できる授業づくりを行っている。

## 4 家庭学習の充実

生活のリズムを整え、望ましい家庭学習の習慣を付けるため、生活リズムチェックシート（家庭学習編）をPTA共催で年3回実施している。自分の学習状況を見直す機会となることや目標をもって家庭学習に取り組むことで内容の充実を図っている。

小中一貫教育を進めていることから家庭学習の手引きは、2小学校と1中学校分を1冊にまとめ、年度のはじめに各家庭に配付している。

## 5 評価

### (1) 学習規律

各学期に2回、児童の学習規律の定着度の確認を行っている。児童と担任で評価し、達成している項目については、シールを貼ることで視覚化し意欲付けを図っている。

### (2) 実態把握と補充学習

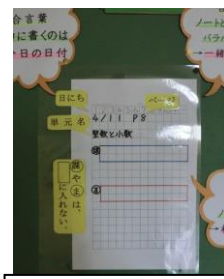
基礎学力保障で重要なのは、1年生のひらがな読み、2年生以上はかけ算の習得、3年生以上になると各単元テストの結果である。ひらがな読みについては、習得が未定着な児童に対して、ひらがなカードによる文字指導や音読指導を行う。単元テストの結果で定着が十分ではない児童については、朝学習や給食配前時の時間を活用して補充学習を行っている。

## IV おわりに

学力の向上を、環境整備、学習に対する意欲付け、指導方法の統一、評価と改善サイクルの充実という方策をとることで高めようとする取組である。またこの場合、チームとして学校全体で取り組むことが学力の向上に必要な条件となる。学力向上の目的は、全ての子どもに基礎学力の保障をすることであるが、現状では学習内容の定着がまだ十分でない児童は少なからずいる。学校全体で統一して取り組む内容と子ども一人一人の実態を十分に把握し、個別の方策を立てて取り組むことも必要である。それとともに、今後は、それぞれの取組のどの点が、どのような効果を生むかを十分に検証し、より確かな学力向上への手だてを探っていきたい。



机の上の配置



ノートの書き方



漢字検定の様子



**【形成期】** 小学1年～小学4年  
**【充実期】** 小学5年～中学1年  
**【成熟期】** 中学2年～中学3年